令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【宮原中学校】

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において1.5pt向上させる。	⇒	ICT機器を有効に活用し、生徒一人ひとりの考える時間を十分に確保させるとともに、個々に考えたことを発信し、互いに学び合う場を設定していく。「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。	⇒	「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の6つの学習プロセス「つかむ・見通す・自力・協働・練り上げ・メタ認知」の自力、協働に重点を置く。自力活動を促すためにオクリンクを活用し、協働活動を促すためにムーブノートやTeamsを活用する授業を実践していく。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、2pt向上させる。 R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において、2pt向上させる。	⇒	全ての授業において、めあてに沿った課題を明確にし、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。定期テスト期間中、生徒が自らの学習状況を把握して学習計画を立てる時間を各学年（各学級）で設定し、家庭学習を計画的に取り組むことができるようにする。また、「スタディサプリ」の宿題配信機能を適宜活用し、家庭学習の充実を図る。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語－2pt, 数学－8ptであった。国語の情報の扱い方に関する領域において、全国平均より＋6ptであった。数学の図形の領域において全国平均より＋7ptであった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語＋8pt, 数学＋4ptであった。国語の書くことの領域において、全国平均より＋5ptであった。数学の記述式の領域において、＋2ptであった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、「そう思う」「おおむねそう思う」という回答の合計の平均が、R4年度の自校結果より、2pt向上し、84％であった。目標値に向けて、より一層子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	ICT機器を有効に活用し、生徒一人ひとりの考える時間を十分に確保させるとともに、個々に考えたことを発信し、互いに学び合う場を設定していく。「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。
思考・判断・表現	変更なし	⇒	「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の6つの学習プロセス「つかむ・見通す・自力・協働・練り上げ・メタ認知」の自力、協働に重点を置く。自力活動を促すためにオクリンクを活用し、協働活動を促すためにムーブノートやTeamsを活用する授業を実践していく。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	全ての授業において、めあてに沿った課題を明確にし、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。定期テスト期間中、生徒が自らの学習状況を把握して学習計画を立てる時間を各学年（各学級）で設定し、家庭学習を計画的に取り組むことができるようにする。また、「スタディサプリ」の宿題配信機能を適宜活用し、家庭学習の充実を図る。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

中1	R5年度さいたま市学習状況調査「数学」の数と式に関する領域において、学習状況調査の市調査結果と自校の結果と比較し、+4.8ｐｔであった。また、「理科」の「粒子」を柱とする領域において、学習状況調査の市調査結果と自校の結果と比較し、+5.3ｐｔであった。 どの教科も学習状況調査の市調査結果と自校の結果と比較すると、おおむね平均値であるが、「社会」の「歴史との対話」で、3ｐｔ以上を下回った。系統性でつながりのある内容について、既習事項を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。
中2	R5年度さいたま市学習状況調査「国語」の我が国の言語文化に関する事項の領域において、学習状況調査の市調査結果と自校の結果と比較し、+3.7ｐｔであった。また、「理科」の「地球」を柱とする領域において、学習状況調査の市調査結果と自校の結果と比較し、共に+5.3ｐｔであった。 どの教科も学習状況調査の市調査結果と自校の結果と比較すると、理科は平均値+0.7ｐｔであり、その他の教科もおおむね平均値であるので、系統性でつながりのある内容について、既習事項を確認したり、基本的な知識・技能を獲得していけるよう図っていく。
中3	「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、91.6%であり、市調査平均値と比較し、+1.4ｐｔであった。 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、88.5%で、市調査平均値と比較し、+2.3ｐｔであった。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価(※)
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果と比較し、国語－2.6ｐｔ、数学－8.0ｐｔであったが、全国平均より国語＋1.7ｐｔ、数学＋6.2ｐｔであった。。 R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」においての市調査平均より、1年数学＋3.6ｐｔ、2年国語＋2.3ｐｔであった。どちらの教科でもおおむね市の平均であったので、1.5ｐｔ向上させるという目標は、おおむね達成することができた。	B
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果と比較し、国語＋7.9ｐｔ、数学＋3.5ｐｔであった。 R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において市調査平均より、1年数学＋4.1ｐｔ、2年数学はおおむね平均値であった。また、どちらの教科でもおおむね市の平均であった。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、R4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果と比較し、+4.8ｐｔで、全国平均および埼玉県平均を上回り、89.6%であった。さいたま市学習状況調査では、肯定的な回答の割合は、91.6%であり、市調査平均値+1.4ｐｔであった。 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、－5.1ｐｔであったが、全国平均および埼玉県平均を上回り、56.3%であった。	B

※評価　Ａ 8割以上（達成） Ｂ 6割以上（概ね達成） Ｃ 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。ICT機器やプロジェクターを有効に活用したことで、視覚的に物事を捉えることができ、生徒一人ひとりの考える時間を十分に確保させることができた。「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行うことができた。また、次年度の改善策として、個別に必要な支援を考え、ICT機器のより効果的な活用を模索し、互いに学び合う場の充実を図っていく。
思考・判断・表現	全体的には、思考・判断・表現力の向上が見られた。「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の６つの学習プロセス「つかむ・見通す・自力・協働・練り上げ・メタ認知」の自力、協働に重点を置き、考えを深めたり、伝え合う活動に積極性を持たせることができた。また、来年度は、対話的で深い学びに向けて、ムーブノートやTeamsの積極的な活用の工夫を促し、授業改善に取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を、どの学年も８５%以上を維持する。また、来年度は、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合５６%から６０%に向上できるよう、学校で学んだことを家庭学習にもつなげる手立てを講じていく。